

別紙2 令和8年度 自己評価書 作成日 令和8年9月10日 国分寺市立第八小学校 校長名 矢島 英明

教育目標: ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○じょうぶな子 ○進んでやる子

目指す学校像: 【安心】一人一人の居場所と心身の安全・安心がある学校 【信頼】児童、保護者、地域から信頼される学校

【成長】互いに高め合い、喜びや達成感を抱ける学校 【協力】エネルギーに満ちた活力ある学校

目指す児童・生徒像: ○正しい行動への判断基準に基づき、人のため、社会のために役立つ行動ができ、困難を乗り越え、粘り強く挑戦することができる子。

目指す教師像: ○児童、保護者、地域の方から信頼される教職員 ○教育への情熱、創意工夫と向上心をもつ教職員 ○心身ともに健康に生活することの意義と方策を学び、保護者や地域と共に児童が健やかに育つよう努める教職員 ○組織の一員として学校運営に参画できる教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
確かな学力の育成	実際の社会や生活で役立つ知識や未知の状況でも対応できる判断力等の自立と自己実現を図る資質・能力を育てる。	すべての児童にとって、学びやすい環境を整備する。	個に応じた指導の充実やICT機器の積極的な活用など、具体的な手立てを工夫する。	3		4		児童・保護者は9割以上が肯定的回答であった。一方で学習の理解に不安を感じる児童が一定数おり、半数以上の教員が「分かる授業」について70%の実施に留まることから、個に応じた指導の充実等の必要がある。	引き続き、ICT端末を活用した学習を取り入れ、視覚的支援、個別支援に対応できるようにする。また、さらに授業改善を進め、校内研究の主軸となる「話し合い」を充実させる。児童の実態を把握し、少人数指導やサポート教室なども含め、「分かる」「できる」経験を増やす。
		主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行う。	校内研究やOJT研修の充実を図り、教師の授業力や指導力の向上を図る。						
豊かな心の育成	人権と生命を尊重する教育活動を通して、相手を思いやり仲間を大切にし、思いを寄せ合い響き合える心温かい児童を育てる。	基本的生活習慣の徹底を図り、規律と秩序ある学校づくりを推進する。	あいさつ運動の取組、「八小生活の約束」をもとに基本的生活習慣を身に付けさせる。	4		3		児童アンケートでは昨年度に比べ肯定的回答が減少した。本校の児童は、校内ではあいさつが概ねできているが、家庭・地域では課題が残る。学校・家庭・地域が連携し、場に応じたあいさつの習慣化を図る必要がある。	教員があいさつをしていても、大きな声で返せない児童もいるが、会釈などの別の方法で人とのつながりをもとうとしている。教員以外の校内の職員や地域の方にすすんであいさつをしていけるよう、学校で実践を積み重ねていくよう指導を行う。
		自尊感情や自己肯定感を育み、豊かな心を育てる。	いじめの予防や早期発見・早期対応への取組や道徳・特別活動等で思いやりの心を育てる。						
健やかな心と体の育成	健全な生活習慣を身に付け、生涯を通して運動を楽しむとともに、健全な心を維持できる資質・能力を育む。	地域や保護者と連携して、心身の健康・安全への意識の向上を図る教育活動を実践・継続するとともに、教職員自身の健康を保つようにする。	児童が自ら心身の健康を大切にする力や意欲を育てよう、計画的・継続的に働きかける。	3		3		高学年に消極的な傾向が見られる。高学年は、委員会活動やクラブ活動で、休み時間に外遊びをする時間が取れないことや、習い事や家庭での様々な役割により、体を動かす機会が減ることが考えられる。	日常的に体を動かす習慣づくりを進めるために、体育の学習の中で高学年でも挑戦したくなるような運動遊びを紹介する。また、それらの運動遊びを楽しめる場や機会を設ける。そして休み時間や家庭での遊びや運動につなげていく。
			教職員のライフワークバランスを考慮した働き方改革の推進を図る。						
家庭・地域との連携・協働	コミュニティ・スクール組織を活用し、保護者・地域と連携し、地域人材や知的・文化的・歴史的環境を生かした教育活動を国分寺学として位置付け、推進する。	組織を活用して、人材や環境等、地域の教育力を引き出し、連携を強化する。	学校支援ボランティアや地域関係機関と連携した体験的な地域学習(国分寺学)の充実を図る。	3		4		全体として評価は高く、情報発信や地域学習の充実が成果として表れている。コミュニティ・スクールとして地域の方、保護者が来校する機会が増え、交流することも地域学習の満足度につながっていると考えられる。	学校としては、地域教材や地域人材を生かし、学年に応じた探究的な学習をさらに充実させる必要がある。年間計画を基に、地域人材・地域教材を生かしていく。また、コミュニティ・スクール組織と連携し、児童、保護者、地域の方が交流できる活動を継続・充実させ、情報発信していく。
			各種お便り、学校運営協議会、学校公開、学校説明会、ブログ等を活用して情報を発信する。						